

びろっぱ

Vol.479 2026. 6

医療情報

不整脈2大トピック「アブレーション」と「除細動器」 最新治療ご紹介

表紙の写真

〈入江理事長プロジェクト〉

医療DXを現場へ「近森AI ver1.0」始動！

数字で見る近森会グループ

河合塾グループ×ワカモノ未来共創部

まるっと探究ツアー 医療編 in 高知



入江理事長の

Project

プロジェクト

近森会の今後の新しいプロジェクトについて、順次ひろっばでお知らせします。

社会医療法人近森会 理事長
入江 博之 いりえ ひろゆき

プロジェクト 14

医療DXを現場へ 「近森AI ver1.0」始動!

近森AI ~院内文書×AIで働き方を変える~

近年、生成AIの進歩により、私たちの仕事の進め方は大きく変わりつつあります。近森会でもこれまで段階的にAI活用を進めてきましたが、このたび「近森AI」の本格運用を開始しました。

近森AIとは、院内の規程やマニュアル、稟議書などの文書をもとに、AIが必要な情報を検索し、回答や文章作成を支援する仕組みです。これは「RAG(検索拡張生成)」と呼ばれる技術を活用しており、あらかじめ学習された知識だけでなく、院内の最新資料を参照しながらAIが回答する点が特長です。いわば「いつでも相談できるデジタルの相棒」であり、日常業務の中で発生する“探す”“考える”“まとめる”といった作業を大きく効率化します。

チャット形式で質問するだけ

これまで、必要な規程や過去資料を探すために時間をかけて



いた場面も多かったのではないのでしょうか。近森AIを使えば、チャット形式で質問するだけで、関連する情報をすぐに得ることができます。また、稟議書や各種文章の下書きも短時間で作成できるため、業務のスピードと質の向上が期待されます。

現在は総務課や診療報酬改定など、共通で利用できる機能から運用を開始していますが、今後は各部署に特化した「専用のチャットボット」の整備も進めていく予定です。現場のニーズに合わせたAI活用を広げることで、より実践的で使いやすい仕組みへと発展させていきます。

本来の専門業務により集中できる環境を

もちろん、AIが提示する内容をそのまま使うのではなく、最終的には人が確認し、判断することが重要です。しかし、AIを上手に活用することで、職員一人ひとりが本来の専門業務により集中できる環境を整えることができます。

この取り組みは、単なる業務効率化にとどまらず、医療の質向上にもつながるものです。職員の負担を軽減し、患者さんと向き合う時間を確保すること。それこそが、私たちが目指す医療の姿です。

近森AIという新しい「相棒」とともに、近森会全体でより働きやすく、より質の高い医療の実現を目指してまいります。



「近森AI」実際の画面。キーワードを入力するだけで、膨大な院内規程や資料から瞬時に回答。さらに関連書類の確認やダウンロードまで、チャットだけで完結。

できること

- 📄 規程を確認する
- 🔍 文書を探す
- ✍️ 稟議書・文章を作る

使い方

- 1 チャットで質問する
- 2 AIが回答・文章を生成
- 3 必要に応じて内容を確認・活用

🗨️ コツ 「探して」.....資料検索
「作成して」.....文章生成

筆頭部長交代 ~抱負を語る~

血液内科

血液内科開設10周年！次の10年に向けて！



近森病院 血液内科
部長 砥谷 和人
とぎたに かずと
 交代日 / 2026年5月1日

当院血液内科は、2016年に上村由樹部長によって開設され、2023年から私に加わり2人体制となることで、高知県内で血液内科診療が可能な数少ない病院の一つとして、さらに診療の幅が広がってきています。開設10周年を迎えるこの度、2代目の血液内科部長を拜命いたしましたので、紙面を借りてご挨拶させていただきます。「近森の血液内科」をさらに発展させられるよう尽力していく所存ですので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、高齢化の進む高知県においては、新たに造血器疾患が見つかる機会も多く、当科では増加している造血器疾患の診療を最新のガイドラインに則って行っています。貧血等のありふれた疾患に紛れ込んでいる造血器腫瘍などを鑑別・診断し、診療に結び付けています。その他、多血症、血小板減少・増加症、リンパ節腫脹、M蛋白血症（骨髄腫等）、凝固因子異常等にも対応しています。

さらに、当院は救急診療の現場で培われた看護師、理学療法士、薬剤師、管理栄養士、ソーシャルワーカー、医療事務等、多職種スタッフの強力なバックアップ体制が整っており、他院で対応困難な重症例にも対応させていただきますので、お困りの場合にはご相談ください。

- 【出身大学】**
高知医科大学（現高知大学）
1992年卒業
- 【主に担当する疾患・手技】**
貧血、多血症、白血球増加・減少症、血小板増加・減少症、凝固異常症、リンパ節腫脹、M蛋白血症 等
- 【認定資格】**
 - 日本内科学会 総合内科専門医
 - 日本血液学会 血液専門医・指導医
 - 日本輸血・細胞治療学会 認定医
 - 日本造血細胞移植学会 造血細胞移植認定医
 - 細胞治療認定管理師制度協議会 細胞治療認定管理師



80周年記念事業 第3弾

記念壁面フラッグが お目見え！ 2026年4月

近森病院の各所に、80周年記念フラッグが登場しました。
賑やかに彩られた院内で、80周年の節目を感じていただければ幸いです。ぜひ、お気に入りの設置スポットを見つけてみてください。



募集中！

3,000とおりの誇れる仕事

- 募集職種**
- 医師
 - 看護師
 - 介護福祉士
 - 救急救命士
 - 薬剤師
 - 診療放射線技師
 - 臨床検査技師
 - 臨床工学技士
 - 事務

詳しくは、近森会グループHPの採用ページをご覧ください。



「治す」アブレーションと、「守る」除細動器。
不整脈治療 2大トピックの最新治療をご紹介します!

当院不整脈センターでは、2026年春、患者さんの負担を抑えつつ、より安心で確実な治療をお届けするため、2つの新しい治療を相次いで実施いたしました。

不整脈最新治療①

心房細動に対する次世代アブレーション治療
～3役を1本のカテーテルで～

不整脈最新治療②

次世代除細動器EV-ICDによる不整脈治療の新たな一歩!

心房細動の不安を解消する治療と、致死的不整脈から命を守るデバイス。不整脈治療の未来を変える最新技術をご紹介します。



近森病院
不整脈センター
センター長
三戸 森見
みとしんじ

不整脈最新治療①

四国初! 心房細動に対する
3役を1本の

3月30日 初症例

当院ではこの度、心房細動に対するアブレーション治療において、四国で初めて次世代3Dマッピングシステム(Affera™)を導入いたしました。本システムは、正確な位置情報をリアルタイムで取得する高精度マッピング機能と、革新的なパルスフィールドアブレーション(PFA)、および高周波アブレーション(RFA)の両立を実現した最新鋭の医療機器です。

次世代3Dマッピングシステム

Affera™
アフエラ



3つの役割を1本で!

高周波電流(RF)

熱による組織損傷

リスク・課題 食道・横隔神経・肺静脈など周囲組織の損傷リスク

- 治療部位ごとにエネルギー源の選択が可能。
- カテーテル入替に起因する合併症の発生リスクが低減される。

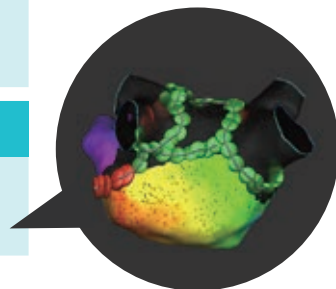
パルスフィールド(PF)

電気パルスによる選択的細胞障害

リスク・課題 冠動脈付近での冠動脈攣縮症リスク、カテーテル形状による治療部位の制限

3Dマッピングシステム

心臓内の電気生理学的情報と三次元の解剖学的情報を可視化



※画像提供: 日本メドトロニック株式会社

KMA講演会

地域医療連携推進法人高知メディカルアライアンス講演会

『医療政策にみる
2026年度診療報酬
改定の狙い』

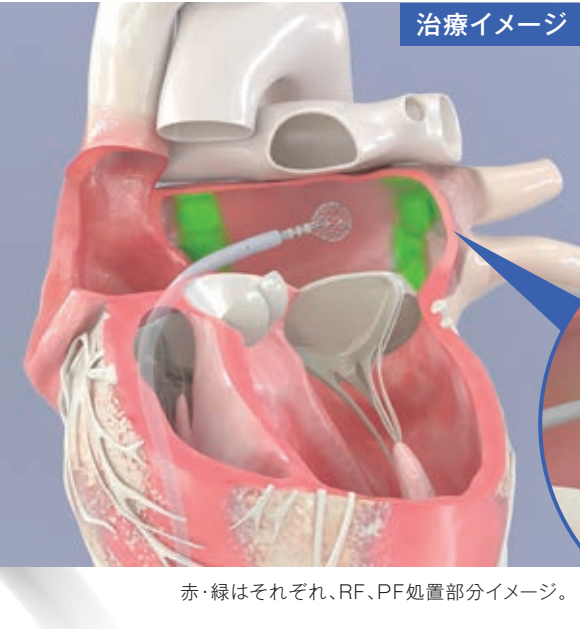
株式会社 仲野メディカルオフィス
代表取締役 仲野 豊先生

なかの ゆたか

〈2026年4月16日/管理棟3階会議室〉

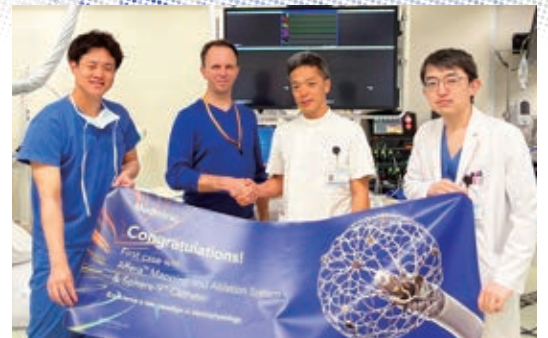


次世代アブレーション治療 カテーテルで



治療イメージ

赤・緑はそれぞれ、RF、PFA処置部分イメージ。



指導医にドイツよりUniversity Heart & Vascular Center Hamburg、Andreas Metzner先生をお迎えして。

全身麻酔管理で精密で確実な処置

Affera™の性能を最大限に引き出すため、当院では筋弛緩薬を使用した全身麻酔管理を行っています。体動を完全に抑制する麻酔管理を組み合わせることで、極めて精密で確実な処置が可能となりました。

最大の特徴

Affera™の最大の特徴は、パルスフィールドと高周波を切り替え可能である点にあります。従来の治療は高周波を用いて組織を焼灼していましたが、PFAは電気パルスによって心筋細胞のみを選択的に障害し、心臓に隣接する食道や神経といった重要な周辺組織への損傷リスクを劇的に低減します。さらに本システムは、部位や症例

に応じて従来の高周波通電への切り替えも可能で、心臓の壁の厚さや解剖学的特徴に合わせてPFAとRFAの利点を使い分けることができます。

多数精鋭のチーム医療が可能とする最新治療

不整脈治療は日々進歩していますが、最新の機器を導入するだけでなく、それを安全に使いこなすためのチーム医療が不可欠です。我々はこの最新機器と、これまで培ってきたチーム医療体制を武器に、心房細動に悩む多くの患者さんへ、これまで以上に安心で身体への負担が少ない最先端の治療を提供してまいります。

心房細動の不安を抱えておられる方は、ぜひ当院の専門外来へご相談ください。

● 最新治療②については次ページへ →

KMA講演会



地域医療連携推進法人高知メディカルアライアンス講演会

『新たな地域医療構想と 未来に向けた 地域医療戦略』

株式会社 日本経営
リサーチ&インテリジェンス
事業部 部長 角谷 哲先生
すみや てつ

〈2026年4月30日/
管理棟3階会議室〉



高知県内初・四国で3例目!

4月6日実施

不整脈最新治療②

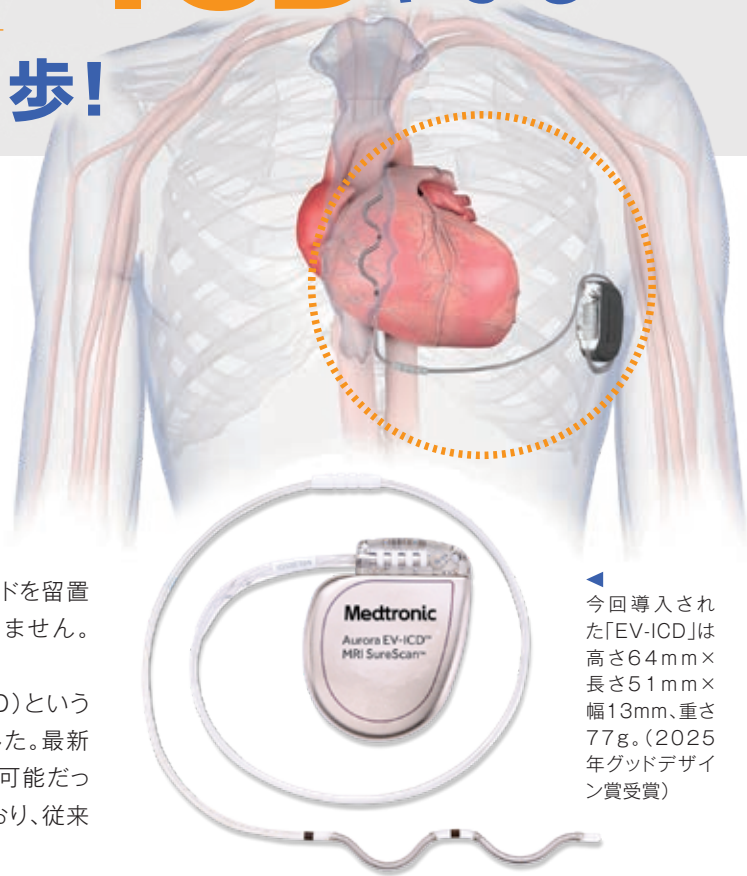
次世代除細動器 EV-ICDイーブアイシーディーによる 不整脈治療の新たな一歩!

当院では、致死的不整脈から患者さんの命を守る最新の治療デバイス、血管外植込み型除細動器 (EV-ICD) を導入し、4月初旬に高知県内初 (四国で3例目) となる手術を行いました。

従来型ICDの「いいとこ取り」 ～EV-ICDの革新性～

これまでの一般的な植込み型除細動器 (ICD) は、心臓の中や血管内にリードと呼ばれる電線を留置する必要がありました。しかし、長期的な使用において、血管の閉塞やリードの断線、あるいはリードを介した全身への細菌感染が深刻な合併症となるリスクを孕んでいました。今回導入となったEV-ICDは、胸骨のすぐ下にリードを留置する画期的なシステムで、血管や心臓を直接傷つけることはありません。血管のトラブルや全身の感染リスクを劇的に抑えることが可能です。

これまででも血管外にリードを置く、皮下植込み型除細動器 (S-ICD) という選択肢はありましたが、ペース機能がないという制限がありました。最新型のEV-ICDは、S-ICDに近い安全性を保ちながら、S-ICDでは不可能だった抗頻拍ペース (頻拍発作を電気刺激で止める) 機能を備えており、従来のICDとS-ICDのいいとこ取りをした次世代のデバイスといえます。

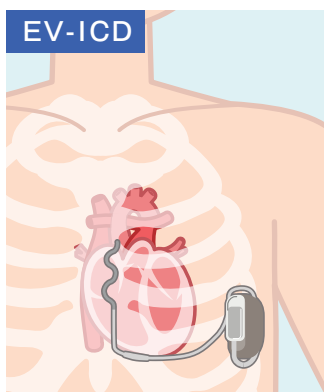
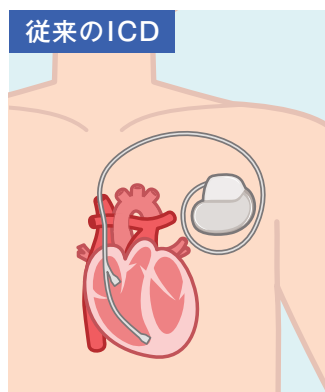


今回導入された「EV-ICD」は高さ64mm×長さ51mm×幅13mm、重さ77g。(2025年グッドデザイン賞受賞)

※画像提供: 日本メドトロニック株式会社

高度な技術を支える チームによる安全な手術体制

このEV-ICDの植込みは、胸骨下の狭い隙間にリードを通す高度な技術を要しますが、当院では循環器内科医に加え、心臓血管外科医のサポートのもとで安全に手術を遂行できる体制を整えています。心臓突然死のリスクを抱える患者さんにとって、除細動器は命綱です。当院はこれからも最先端デバイスを積極的に取り入れ、高知県の不整脈治療の質を向上させるべく邁進してまいります。治療に関するご相談は、当院の不整脈専門外来までお気軽にお寄せください。



血管外 (胸骨下) にリードを留置する低侵襲性を持ちつつ、ペース機能も可能なEV-ICDは、従来のICD・S-ICDのいいとこ取りといえる機能を持ち、さらに小型で電池寿命も長くなっている。



地域のみなさんへ最新治療を広く知らせるために、地元メディアを招いた報道説明会を開催した。



論文掲載

初の論文掲載

近森病院 循環器内科 田中 漱一郎 たなか そういちろう



論文名

Vascular Behcet's Syndrome - A Giant Coronary Artery Aneurysm, Recurring Aortic Aneurysms and Prior History of Acute Myocardial Infarction
(血管型ベーチェット症候群 — 巨大冠動脈瘤、再発性大動脈瘤、および急性心筋梗塞の合併)

掲載誌

Circulation Reports 2025 Mar 7;7(5):389-390.



← 閲覧はこちらから

この度、ベーチェット病に合併した巨大冠動脈瘤・胸腹部大動脈瘤の症例を論文として発表いたしました。

本報告においては、特徴的な画像所見をいかに分かりやすく提示できるかに注力いたしました。土居先生の熱心なご指導のもと、細部までこだわって作成した画像が評価され、無事に掲載に至ることが

できました。

初めて執筆した論文が形として残ることに、大きな喜びと責任を感じております。支えてくださった先生方への感謝を忘れず、今後は臨床研究を含めた学術活動にも邁進していく所存です。

自衛隊衛生班の実習受け入れ

～もしものために、顔の見える関係を～

2026年4月2～22日

近森病院 救命救急センター センター長／救急科 部長 井原 則之 いはらのりゆき

今回、陸上自衛隊高知駐屯地の衛生班2名を近森病院に迎え、病院実習を行いました。

実習では、ERや病棟をはじめ、手術室、透析室、内視鏡室、薬剤部、リハビリ部門、医療相談室など、さまざまな部署で病院医療の実際に触れていただきました。お2人とも熱心に取り組まれ、医療現場の流れや多職種連携の大切さ、そして患者さんに向き合う姿勢を学ばれていたのが印象的でした。私たちにとっても、自衛隊ならではの規律やまっすぐな学ぶ姿勢に触れることができ、とてもよい刺激となりました。

こうした実習を通して、病院と自衛隊がお互いの役割を理解し合い、平時から顔の見える関係を築いていくことは、災害時の連携という面でも大きな意味があります。今後もこのような交流を大切にしていきたいと思えます。



さまざまな部署の見学にも回りました。

研修

修了報告

県外ドクター

県外の医療機関より研修で近森病院へ来られた先生から、研修修了に際してメッセージを頂きました。

消化器内科

矢野 佳奈子 先生
やの かなこ

大阪南医療センターより

研修期間

2025年4月1日～2026年3月31日

近森病院での1年はあっという間でしたが、たくさんのスタッフの方々に支えられ、多くの刺激があり、学びの多い有意義な時間を過ごすことができました。1年間ありがとうございました。

近森病院 献血

6/24(水)
12:30～17:15

400 mL

場所／
近森病院 総合受付
玄関前駐車場

ご協力
お願いします!



2025年度

2025年4月～2026年3月

数字でみる近森会グループ

※「近森病院」の実績は精神科をのぞく

<p>近森会グループ</p> <p>職員数 (2026年4月1日現在)</p> <p>1,970人</p> <p>委託を含む実質的な職員規模は2,329人となり、多くのスタッフでチーム医療を展開し、日々患者さんをサポートしています。</p>	<p>近森病院</p> <p>救急車搬入件数</p> <p>6,753件</p> <ul style="list-style-type: none"> 院内救急車出動件数 96件 ドクターカー 113件 ドクターヘリ受入件数 97件 連携搬送 108件 	<p>近森病院</p> <p>延べ入院患者数</p> <p>132,081人</p> <p>急性期病院として一般病床429床(2024年1月～)を確保。入院中の患者さんは、1日当たり平均362人。</p>	<p>近森病院</p> <p>退院患者数</p> <p>11,343人</p> <p>1年間に退院された患者数です。平均在院日数は11.84日です。</p>
<p>近森病院</p> <p>手術件数 6,876件</p> <p>急性期医療に取り組む近森病院では、一刻を争う患者さんが多く、日曜日関係なく、1日当たり平均19件の手術数です。</p>	<p>近森病院</p> <p>延べ外来患者数</p> <p>141,502人</p> <p>地域医療支援病院として地域に密着した医療を展開しています。外来患者さんは1日当たり平均388人(土日祝日を含む)です。</p>	<p>近森病院 精神科</p> <p>総合心療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> 電気痙攣療法 利用者数 92人 クロザリル 導入者数 7人 (継続率100%) 年間病床利用率 74% 1日平均外来患者数 105人 	
<p>近森リハビリテーション病院</p> <p>在宅復帰率 92.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> 重症患者割合 (日常生活機能評価10点以上) 46.4% 重症患者改善率 (日常生活機能評価点数4点以上改善) 66.4% 	<p>近森オルソリハビリテーション病院</p> <p>地域包括ケア在宅復帰率</p> <ul style="list-style-type: none"> 3階病棟 94.9% 4階病棟 94.9% 延べ外来患者数 14,443人 	<p>社会福祉法人ファミーユ高知</p> <p>高知ハビリテリングセンター</p> <p>高次脳機能障害のある方の延べ利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> 夜間支援 10,796人 (全利用者の47%) 日中支援 13,009人 (全利用者の53%) <p>2025年12月、高次脳機能障害者支援法が成立。法制度が整う以前から、高次脳機能障害のある方への支援を日中から夜間まで、生活全体を通して行ってきました。この数字は、その積み重ねの結果です。</p>	
<p>在宅支援部門</p> <p>延べ件数／利用者実人数</p> <ul style="list-style-type: none"> 訪問看護 518件／88人 訪問看護(精神) 416件／148人 訪問リハ 368件／66人 <p>※データは月間平均数値</p>	<p>近森会グループ看護部</p> <p>平均年齢</p> <p>役職者(主任以上)のみ</p> <ul style="list-style-type: none"> 近森病院 36.6歳／50.8歳 リハ病院 40.0歳／49.5歳 オルソ病院 47.4歳／55.6歳 		



近森会グループ 看護師採用試験

第2回 2026 **6/27** SAT **土** **.28** SUN **日**

第3回 2026 **8/29** SAT **土** **.30** SUN **日**
 第4回 2027 **1/30** SAT **土** **.31** SUN **日**



●お問い合わせ先／TEL:088-822-5231(代表) メール:kango@chikamori.com



学びを現場でコツコツと

看護部 シニア看護師長／認定看護管理者 山脇 寛子 やまわき ひろこ

近森会グループ看護部
マスコットキャラクター
モリンちゃん



▲一緒に研修を受け、研鑽を積んだ影山師長(右)と。

このたび認定看護管理者を取得いたしました。長い研修の中で、同じ思いを抱く仲間と出会い、互いの経験や悩みを分かち合いながら、多くの気づきと温かな学びを得る大切な機会となりました。また、自分の歩みを静かに振り返る時間にもなり、これからの働き方をそっと見つめ直すことができました。

医療の状況が大きく変わる今、安心して医療を受けられる環境を守るためには、日々の小さな課題に丁寧に向き合い、スタッフが働きやすく、やりがいを感じられる職場づくりが大切だと感じています。地域医療を支える一員として、近森病院が積み重ねてきた役割を大切にしながら、学びを現場や地域へつなげていければと思います。



ドイツ留学 Report

Bonn大学病院(留学中)／循環器内科
菅根 裕紀 すがね ひろき

vol.7

—— ドイツで走った10km ～再出発のBonnマラソン～ ——

医師として長く働くための身体づくり

現在4月ですが、こちらもだいぶ暖かくなり、日が長くなってきました。というか、緯度の関係で21時まで日が暮れなくて困っています。

さて、今日はBonnマラソンに参加してきました。と言っても10kmですが。実は3年ほど前にアキレス腱を切ってから左足の筋肉が弱いという状態が続いていて、やがて腰が痛くなり、腰を庇うと首が痛くなるという悪循環が発生。カテーテル治療医を長く続けたいなら、どこかで左足の筋肉を取り戻すため「走る」という行為と向き合わなくては」と思っていました。

想像以上に自由だったドイツ流マラソン

自分はこういうイベントに参加したことがなかったのですが、ドイツのマラソンイベントは日本とだいぶ違う気がします。まず、準備体操がなぜかディスコ音楽に合わせてみんなでダンスするというものでした。後でドイツ人に聞いてみたのですが、そもそも集団で準備体操をするという概念がないらしいです。次に驚いたのは給水所です。あるのは、水、スポーツドリンク、バナナ、そしてノンアルコールビール。なぜここでもビールなのだろうか…。

10kmマラソン完走と心筋梗塞

肝心の結果ですが、石畳が雨で滑るのに気が減りましたが何とか完走することができました。左足の完治を実感しつつ帰路につく途中で、指導上級医に遭遇しました。どうやら4人ほどマラソン中に心筋梗塞を発症した患者さんがいたようで、一日中カテーテル治療をしていたらしいです。運動もほどほどが一番ですね。Bis bald.(それではまた)



準備体操に給水所と、日本とはだいぶ違うドイツのマラソン大会でしたが、無事に完走することができて一安心。

河合塾グループ×ワカモノ未来共創部
医療のリアル 探究フェローシッププログラム

まるっと 探究ツアー 医療編 in 高知

2026年3月24～27日



中高生の“地域医療徹底取材4日間”に全面協力!

3月24日～27日、河合塾グループと病院マーケティングサミットJAPANワカモノ未来共創部との共催で、全国の中高生を対象とした「医療のリアル 探究フェローシッププログラム まるっと探究ツアー 医療編 in 高知」を当院で開催しました。東京都、神奈川県、愛媛県など、全国から10名の中高生が参加してくれました。

1日目はオリエンテーションや当院の概要説明・見学、現役新聞記者による取材講座を実施。2日目は外来、ER、手術室、カテ室、内視鏡室、8A病棟、ICUを巡り、多職種が連携して患者さんの治療にあたる現場を取材してもらいました。3日目は様々な職種の

職員へのインタビュー取材を行い、最終日には3グループに分かれて取材成果の発表を行いました。

事後アンケートでは生徒・保護者ともに9.8点(10点満点)という大変高い評価をいただき、保護者からは「短期間だが子供の成長が感じられた」との嬉しいお声も寄せられました。

全国的にも先進的な試みである本プログラムがこれだけ充実したものとなったのは、主担当として尽力してくれた企画課スタッフはもちろん、一丸となって準備から当日対応までご協力いただいた各科職員のご協力あってこそです。皆さまに心より感謝申し上げます。



近森病院 消化器外科
主任部長

塚田 暁 つかだ あきら

「まるっと探究ツアー 医療編」とは?

将来の医療人を志す中高生を対象とした3泊4日の地域医療探究プログラム。参加者は「取材者」として医療現場へ飛び込み、地域医療のリアルに深く迫る内容となっています。

Program

1日目

オリエンテーション
病院見学、
グループワーク



2日目

病院実習プログラム

救急外来、専門外来、
検査・治療、手術など
各現場に入っの取材活動

朝から終日みっちり
現場取材。手術室やER、ICU
など最前線で働くスタッフ
に直接話を聞きます。



この日は夜の病院見学も実施。病棟やERなど
昼間とはまた違う様子に興味津々。

高校生3名、中学生7名が参加した今回のプログラム。
4日間は病院のユニホームで活動してくれました。



単なる「見学者」ではなく「取材者」として 医療の最前線に飛び込む！

3日目

病院実習プログラム

2日目に取材した各医療関係者へ
個別インタビュー、最終プレゼン準備



ソーシャル
ワーカー

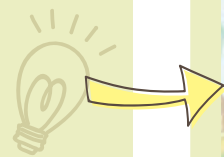


診療放射線
技師



臨床工学技士

他、全11職種にインタビュー！



4日目

最終プレゼン、
フィードバック・
振り返り



現場取材と各職種
へのインタビューからまと
め上げた、それぞれの発見や
気づきを盛り込んだ「宣言」
を3グループに分かれて
発表しました。



参加者の感想 (一部抜粋)

- この経験は受験でも、一人の人間の人生観としてもとても刺激をもらいました。
- この3泊4日で、現場で働く方々の姿を見ることで、それぞれの役割の大切さや責任の重さを実感しました。
- この熱い気持ちを忘れないように、憧れで終わらせることのないように、これから先、命を救う“人財”の一員となれるよう、頑張っていこうと思います。

最終プレゼンの後は「修了証書」を手みにみんなで記念撮影。



充実の4日間、
お疲れ様でした！

熱烈応援 昇格人事

はい、よろこんで 近森病院 麻酔科 部長 野島 宏悦

のじま ひろよし

今年で高知に戻り8年目となりました。当時小学1年生だった長男も、今では部活に励む中学生となり、身長も追い越されました。自身の成長は道半ばではありますが、このたび麻酔科部長を拝命いたしました。「すべてを楽しむ」をモットーに、気軽に相談いただける存在を目指すとともに、患者さんに安心いただける麻酔の提供に努めてまいります。



【出身大学】

高知大学 2008年卒業

【主に担当する疾患・手技】

麻酔全般、神経ブロック・併用症例、重症合併症を有する麻酔

【認定資格】

・日本麻酔科学会 麻酔科認定指導医
・日本専門医機構 麻酔科専門医
・日本救急医学会 救急科専門医
・日本集中治療医学会 集中治療専門医
・JATECインストラクター

・日本周術期経食道心エコー認定委員会 認定医 (JB-POT)
・日本区域麻酔学会 J-RACE
・麻酔科標榜医

チームのみんなとともに

近森病院 心臓血管外科 部長

田井 龍太

たいりゅうた

この度心臓血管外科部長心得を同僚の衣笠医師とともに拝命いたしました。若輩ながら、このような任を与えられた意味を自覚し、これから責任を負う立場として診療に臨みたいと思います。とはいえ、まだまだ足りない部分も多いと思いますが、それは心臓血管外科チーム全体で補っていきたく考えています。同僚や、若手の医師、内科の先生方だけでなく、多職種に支えられての自分です。皆に感謝しつつ、これからも日々邁進していきたく思います。



【出身大学】

高知大学 2011年卒業

【主に担当する疾患・手技】

成人心臓・成人大血管・成人先天性心疾患

【認定資格】

・日本外科学会 外科専門医
・三学会構成心臓血管外科専門医認定機構 心臓血管外科専門医
・身体障害者福祉法・指定医師
・経力テーテル的心臓弁治療関連学会協議会 TAVI指導医

足もとを見つめて

近森病院 心臓血管外科 部長 衣笠 由祐

きぬがさ ゆうすけ

このたび部長心得を拝命いたしました。医師として15年目を迎え、ここまで支えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。脚下照顧の思いを胸に、目の前の診療を一つひとつ丁寧に積み重ね、結果として信頼される心臓血管外科を築けるよう、日々全力を尽くしてまいります。



【出身大学】

高知大学 2012年卒業

【主に担当する疾患・手技】

成人心臓、大血管、末梢血管

【認定資格】

・日本外科学会 外科専門医
・三学会構成心臓血管外科専門医認定機構 心臓血管外科専門医
・関連10学会構成日本ステントグラフト実施基準管理委員会 腹部ステントグラフト指導医
・関連10学会構成日本ステントグラフト実施基準管理委員会 胸部ステントグラフト実施医
・経力テーテル的心臓弁治療関連学会協議会 TAVI実施医

感謝を胸に

近森病院 消化器内科 科長
矢野 慶太郎

やの けいたろう

このたび消化器内科科長を拝命しました。今日まで診療を続けてこられたのは、支えてくれた家族、導いてくださった上司、共に歩んできた同僚のおかげです。感謝を胸に、これからも患者さん一人ひとりに丁寧に向き合い、安全で質の高い医療の提供に努めます。また、後輩医師の育成や働きやすい環境づくりに注力し、地域に信頼される診療科を目指します。



【出身大学】 昭和大学 2014年卒業

【主に担当する疾患・手技】

内視鏡検査・治療、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)、小腸内視鏡など

【認定資格】

- ・日本内科学会 総合内科専門医
- ・日本消化器病学会 消化器病専門医・支部評議員
- ・日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医・支部評議員

声を大切に

近森病院附属
看護学校
教務主任補佐

田原 佳奈

たはら かな



看護が命に関わる仕事であるように、教員もまた学生の人生に関わる仕事だと日々感じています。これまで臨床の皆さま、先生方、学生たちの言葉や存在に支えられ、多くを学ぶことができました。これからも一人ひとりの声や思いを大切に、学生と共に学び続けながら、看護の未来を支える人材育成に努めてまいります。

近森会グループで元気に働く仲間を紹介しします

研修医1ヶ月目を終えて

初期研修医 1年目 鈴木 亜優

すずき あゆ

24年間慣れ親しんだ群馬から車で約10時間。トンネルをくぐると見えてくる高知市内。相談役・近森先生がご覧になったスカイブルーの空は生憎見えませんが、初めて県外&1人暮らしを始める私にとってはサファイヤのように輝いて見えました。

4月よりER科で研修させていただいていますが、この1ヶ月は24年間で最も「すみません」を口にした毎日でした。まだまだ考えも浅く、段取りも悪く、先生方をはじめメディカルの皆様にはご迷惑をおかけするばかり。そんな私でも、口にする「すみません」の数より受け取る「ありがとうございます」が増えていくよう、これからも諸先輩方にご指導いただきながら日々研修に励んでいきたいと思えます。

ハッスル研修医



初期臨床研修管理委員会 プログラム責任者に 就任しました

近森病院 循環器内科
西村 祐希 にしむら ゆうき



研修医プログラム責任者を拝命しました。自分が研修医だった10年前と比べて、時代も環境も大きく変わりました。それでも、医師としての土台をつくる初期研修2年間の大切さは変わりません。研修医が成長できる最高の環境を作れるよう、皆さんと一緒に楽しく歩んでいきたいと思えます。

近森で、
学ぶ。
Open Campus.

近森病院附属看護学校
オープンキャンパス

6/14 SUN

詳細は [近森看護学校](#) で検索、もしくは右のQRコードより公式ホームページをご確認ください。社会人や保護者の方の参加も大歓迎です。



リレーエッセイ

癒やしの昭和歌謡

近森病院 透析室 看護師 吉本 梨都 よしもと りづ



私が人生で初めて好きになった楽曲は松田聖子さんの「赤いスイートピー」です。物心ついた時から、自宅では母が好きなBARBEE BOYS等の昭和バンドからディスコソングが流れていました。そんな母の影響もあってか、山口百恵さんや中森明菜さん、沢田研二さんといった

昭和アーティストが大好きになりました。社会人になり、自分の車を持ってからは、運転中に必ず昭和歌謡を流しています。最近では、杉山清貴&オメガトライブの「ふたりの夏物語」がお気に入りです。

学生時代にはなかなか行けなかったライブにも行けるようになり、去年の冬にゴダイゴのライブに母と行きました。アンコールでの「銀河鉄道999」、撮影許可の出た「ガンダーラ」は今でも動画を見返しています。リリースから約47年経っても、変わらない歌声と美しい歌詞



に改めて感動しました。私にとって人生で初めてのライブが、ゴダイゴで本当に良かったと思っています。

今年初めてのライブは久保田利伸さん。耳心地のいい声質と歌唱力を生で聴き、ワクワクしたと同時に、「声で遊ぶ」という天才にしかできないテクニックを観て、アーティストという言葉はこの人のためにあるんだと痛感しました。一緒に行った母とは、その日の夜から2日以上は久保田利伸さんの話が尽きませんでした。今でも話題に挙がるくらいです。またライブ会場には、久保田利伸さんの等身大パネルがあり、記念と一緒に写真を撮りました。

そのほかに行ったライブは、AIさんやLOVE PSYCHEDELICO。今後は、郷ひろみさんと松任谷由実さんのライブを予定しています。今年で社会人3年目、大好きなアーティストのライブに大好きな母と一緒に行くことができるようになり、幸せを感じています。まだまだ母と一緒にいきたいアーティストのライブがたくさんあります。そのために頑張ろうと思います。



私の趣味

パワーの源「Superfly」

近森リハビリテーション病院
5階病棟 介護福祉士 國友 経匡
くにとも つねまさ



コロナ前は旅行が趣味で、毎年友達と大阪や京都へ行っていましたがコロナ以後ほぼ行かなくなった代わりに、今ではライブに行く事が趣味であり、楽しみの一つです。

高知公演に参加して以降Superflyの大ファンで、ライブのお知らせが来ると知人と一緒に参加して、県外公演ではライブがてら買い物や美味しい物を食べたりと満喫しています。Superflyの楽曲は「愛を込めて花束を」が有名かもしれませんが、僕の推しは「Beautiful」という曲です。ライブの定番曲で、生歌を聴くと会場全体が盛り上がるし、また明日から頑張ろうという気持ちにさせてくれます。なんとと言ってもボーカルの越智さんのパワフルな歌声にいつも感動します。ちなみに、昨年9月には他アーティストの歌をカバーしたアルバムを引っ提げての愛媛公演にも行きました。定番曲に加えてSUPER BEAVERの「人として」やMrs. GREEN APPLEの「僕のこと」等の名曲を、越智さんの歌声で聴けてとても良かったです。



これからも、Superflyのライブに参加することを楽しみに仕事を頑張ろうと思うし、「行きたいな」と思ったアーティストさんがいれば、どんどんライブに参加したいと思っています。

私の○○

私の「散歩みち」

臨床検査部 臨床検査技師
安岡 可帆 やすおか かほ



最近、健康のためにと意識して始めたのが、近所の散歩です。特に目標の歩数を決めるわけでもなく、天気の良い日や、少し時間が空いた時に、気が向くままに歩いています。

普段は車や電車で通り過ぎてしまう景色も、自分の足で歩いてみると、違った表情を見せてくれます。季節の移ろいを感じさせる道端の花や、新しくできたお店、あるいは、ただただ流れる雲を眺めるだけでも、良い気分転換になります。歩いている間はなるべくスマートフォンを見ないようにして、視界に入る風景に身を任せることで、不思議と頭の中がすっきりしていくのを感じます。

「運動」と呼ぶにはおこがましいほどのんびりとしたペースですが、凝り固まった体が少しほぐれ、心身ともにリフレッシュされるような気がします。これからも、無理のない範囲で、この「気まぐれな散歩」を続けていければと思っています。



近森
相談役の
ぶらり
旅

まつまえじょう

最末期に築城された
日本式城郭 松前城

6月中旬、北海道の最南端でめったに行けない松前城へ、北海道新幹線に乗ってぶらりに行ってきました。幕末、外国船の出没に備え、津軽海峡の警備強化のため、安政1年(1854年)松前城が完成しました。

ちなみに、箱館戦争では尊王派の松前藩は土方歳三率いる旧幕府軍の攻撃に明治1年(1868年)11月5日たった1日で落城しました。なぜでしょうか？(答えは8ページの下)

天守の御三階櫓。艦砲射撃的となることを恐れ天守台は約2.5mの低石垣であった。

三の丸七番台場。海峡に向けて7基の砲台、城外にも9基の砲台が築かれていた。

本丸御門。2階の櫓部分が極めて低く、正面からの見栄えだけを重視した門であった。

高麗門の搦手二ノ門。多くの兵を上げる雁木(横長の階段)がある。

北海道最南端白神岬。カモメが数多く飛んでいました。



看護学校通信

「意志ある学び」の実現にチャレンジ!

近森病院附属看護学校 副学校長 平瀬 節子 ひらせ せつこ

本校は今年度39名の新生を迎えました。高知県民の健康を守る人材育成を担う学校として、一人ひとりを大切に育てる教育を推進しています。小・中・高校で培った主体的な学びを基盤に、「考えて行動できる看護師」の育成を目指します。

その第一歩として「未来教育」をテーマとした、教育・指導に関わる方向けの公開研修会を5月16日(土)に開催しました。

教育機関の皆様、臨床現場の皆様、ぜひ一緒に学びを深めていきましょう。



▲ 講師にお迎えした鈴木先生(左)と筆者(右)。



編集室通信

8月上旬に開催される日本看護学校協議会学会に向けて、事務局として着々と準備を進めています。「AI時代の看護教育を考える」をテーマに、講演やシンポジウムなど多彩なプログラムを企画しております。参加者の皆さまにとって学びと交流の充実した場となるよう、スタッフ一同取り組んでいるところです。引き続きご支援をよろしくお願いいたします。 つつじ

診療数 2026年4月

— 電子カルテ管理課 —

● 近森会グループ

外来患者数	16,854人
新入院患者数	1,153人
退院患者数	1,149人

● 近森病院(急性期)

平均在院日数	11.15日
地域医療支援病院 紹介率	100.35%
地域医療支援病院 逆紹介率	322.57%
救急車搬入件数	507件
うち入院件数	300件
手術件数	598件
うち手術室実施	384件
うち全身麻酔件数	273件

田中良

Ryo Tanaka

近森リハビリテーション病院
リハビリテーション部 言語聴覚士

聞き手／ひろっば編集部



「食べる喜び」という
ゴールを目指して

管理栄養士から言語聴覚士へ

近森リハビリテーション病院の言語聴覚士(以下ST)、田中さんの前職は管理栄養士。地元九州の総合病院で勤務していた。

転職が訪れたのは、30代半ば。自ら調理した食事を患者さんが食べる姿にやりがいを感じる反面、食形態の最終的な安全判断を下すのはSTだった。調理者として核心に踏み込めない歯がゆさ。さらに、退院時の栄養指導で「なぜこの形態なのか」というご家族の間に根拠を持って答えられず、摂食嚥下の専門知識が不可欠だと痛感したという。

認定管理栄養士を目指すか悩んでもいたが、その考えを一旦リセット。摂食嚥下のスペシャリストとして歩み出すために、ゼロからの学び直しを選択した。

「STのSは摂食のS」!? 勘違いから始まった挑戦

36歳でSTの専門学校に入学した田中さんを待っていたのは、思いもよらない壁だった。時間割には聴覚障害や音響学といった未知の分野が並んでいた。実は「ST=摂食嚥下の専門家」だと完全に思い込んでいたのだ。言葉に悩む子どもを支援したい元教師や保育士の同期から、「逆に摂食嚥下のことは知らなかった」と言われた時は、啞然としたという。

そんな勘違いを包み隠さず笑って打ち明けるのが、彼のチャームポイント。不安と後悔の入り交じる規格外のスタートだったが、逃げ出すことなく未知の分野も学び抜き、無事に資格を取得した。

新たな舞台に選んだのは、高知の近森会だった。以前、九州で聴いた前臨床栄養部長宮澤靖氏の熱い講演に惹かれ、「あのすごい病院を見てみたい」と興味を抱いていたからだ。思い込みの激さと真っ直ぐな行動力を併せ持つ異色のSTは、こうして土佐の地に降り立った。

もがきながら進む、 リハビリテーションの現場

STとして3年目を迎えた今も、自己評価は全く高くない。「自分のプランが本当に患者さんに合っているか」と、退院を見送るたびに自問自答し、「自分じゃなければ、もう少し良くなったのではないか」と思い詰めることもあるという。その悩みは、患者さんと真摯に向き合っているからこそ。今は先輩の伴走を受けながらスキルを体系化しようともがく日々。STとして胸を張って患者さんを送り出せることが今の一番の目標という。

胃袋も我慢強さも規格外 フルマラソンで「完食」を

「プライベートは何もないですよ。休日は料理を作り置きしたり、走ったり…」。

本人は謙遜して話すので、趣味のジョギング程度を想像して話を聞くと、度肝を抜かれた。フルマラソンの自己ベストは3時間18分。中期的には3時間切りの「サブ3」、長期的には2時間50分台という驚異的なタイムを目標に掲げている本格派だ。休日には、自宅のある薊野付近から桂浜、仁淀川大橋方面まで、35km近い距離を淡々と走り込む。

大会出場の楽しみの一つが、沿道で提



田中さんのイチオシの大会が「熊本城マラソン」。美しい風景と、声援やおもてなしがとにかく温かいそうだ。

供されるご当地グルメを制覇すること。「走り終わる頃にはお腹いっぱいです」と無邪気に笑う姿に、根っからの「食べること大好き」な素顔がのぞく。

今年も走るか尋ねると、なんと今年1月にジムで20kgのウェイトを足に落とし、粉碎骨折したという。「恥ずかしくて、流血しながら自分で片付けてタクシーで病院に行きました」と。数日間は靴下に血を滲ませながら仕事を続けたというから、その我慢強さとマイペースぶりに驚かされる。怪我の影響でランニングは制限中だが、この秋には岡山の大会にエントリー済み。やはり足はまだ痛むようだが…。

ゴールを見据え、走り続ける

「まだまだ自分ではできていない」と繰り返す田中さんの当面の目標は、症例レビューを重ねて訓練プランの妥当性を高めることだ。その先に見据えるのは、管理栄養士の知見とSTの技術を統合し、摂食嚥下に悩む患者さんの「食べる喜び」に寄り添えるSTになることだろう。持ち前の人懐っこいキャラクターとストイックな精神で経験を積み、患者さんと笑いあえる理想のゴールを目指して、これからも力強く走り続けるはずだ。